

韮山反射炉が世界遺産に登録

特集

「韮山反射炉」世界遺産に登録。
守り、伝え、次の世代へ。

世界遺産ジャーナル

「夏山登山に向けて」

世界遺産構成資産紹介

村山浅間神社

富士山世界遺産センターの研究活動開始

4つの基本コンセプト
研究員紹介

vol.
28
July, 2015

世界遺産ニュースレター NEWS Letter vol.28

発行 / 静岡県世界遺産センター整備課

〒420-8601 静岡市葵区追手町9-6 TEL.054-221-3657 FAX.054-221-3757
http://www.pref.shizuoka.jp/bunka/kyo-120/index.html
e-mail: wcenter-seibij@pref.shizuoka.jp

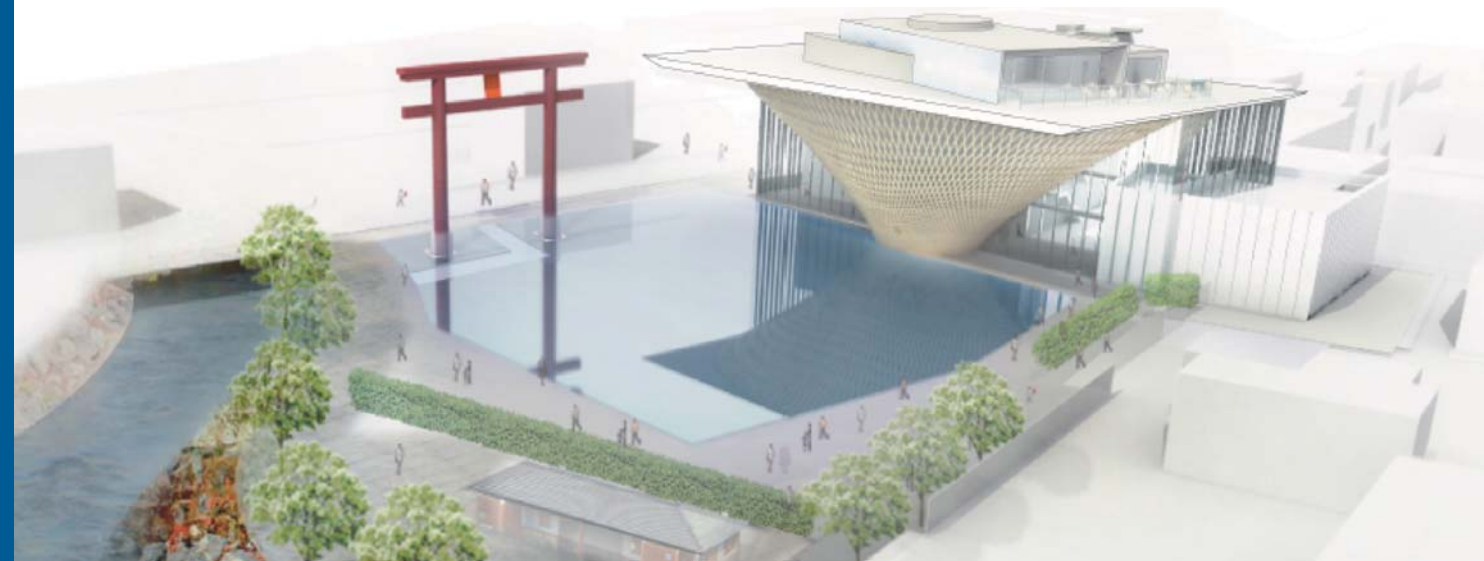


富士山世界遺産センター (仮称)

静岡県では、平成28年度中の完成を目指して、富士宮市に富士山世界遺産センター(仮称)の整備を進めています。

センターでは、「永く守る」、「楽しく伝える」、「広く交わる」、「深く究める」の4つの基本コンセプトのもと、様々な事業を展開していく予定です。また、主に「深く究める」活動を担う研究員の採用を進めており、現在は3人の研究員がそれぞれの分野の研究を進めています。

今回は、各研究員から御挨拶を申し上げます。



永く 守る

富士山の普遍的価値を次世代に継承するための拠点施設を目指します

楽しく 伝える

富士山と構成資産の関連性を体系的に分かりやすく展示します

広く 交わる

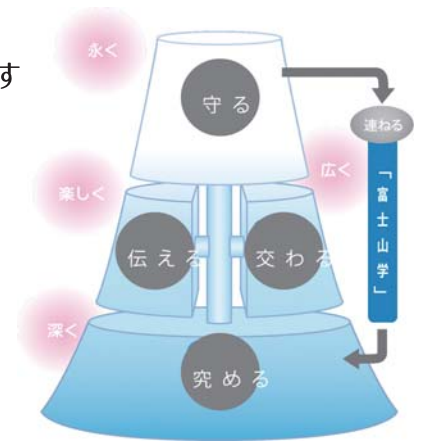
観光・学術・芸術など、富士山を通じた交流機会を創ります

深く 究める

富士山の調査研究活動を進め、学術的知見を深めます

富士山学

センターの諸活動の成果を連ねることで「富士山学」として体系化します



内山 純蔵 教授



専門は、環境考古学と景観論です。
人は見かけによらぬもの。内面を見ずして、人格はわかりません。同じように、土地にも「地格」があります。どんな風景も、目に見えない歴史と文化に支えられています。これが「景観」です。富士山の景観とは？人類・世界にとっての意味は？将来は？縄文以来の環境と人類のお付き合いの歴史を踏まえて考えます。
著作は『東アジア内海文化圏の景観史と環境』『縄文の動物考古学』(昭和堂)など。

松島 仁准 教授



専門は、中～近世の日本美術史で、政治と文化の相関関係を研究しています。
これまで徳川将軍と狩野派絵画について研究してきましたが、今後は鎌倉将軍から足利将軍、豊臣秀吉、徳川将軍など歴代の権力者が自らを富士山に重ねることによって支配の正当性を主張したかについて、彼ら周辺で作られた絵画や文学作品を素材に検証し、中世から近世にかけて富士山が日本人の心性・美意識を占める「イデオロギー」を映す鏡としての地位を確立していった過程を考えていきます。
著作は『徳川将軍権力と狩野派絵画』(ブリュッケ)など。

大高 康正 准教授



専門は、日本中世史、社会史です。
多くの人間を魅了してやまなかった寺社参詣、聖地巡礼の世界を研究しています。古文書・古記録や絵画資料、民俗資料などを通して、信仰の対象としての富士山の歴史を広く、深く研究いたします。
著作は『参詣曼荼羅の研究』(岩田書院、2012年)、『富士山信仰と修験道』(岩田書院、2013年)など。